

和文要約

最後通告ゲームでの不公平分配の拒否動機を検討するため、228 名を対象とし、最後通告ゲームと、受け手が拒否しても提案者の利益は変わらない一方的最後通告ゲームを用いた実験を実施した。更に、一方的最後通告ゲームでの拒否動機が、社会的罰に基づくものか、同一性保護（福野・大淵，2001）に基づくものであるのかを検討するため、受け手の拒否が提案者に伝わる“伝達ありゲーム”と、伝わらない“伝達なしゲーム”の、2 種類の一方的最後通告ゲームが設定された。3 種類のゲーム条件およびプレイヤー条件は、すべて参加者間要因として操作された。2 種類の一方的最後通告ゲームでの拒否率は、最後通告ゲームでの拒否率の半分程度存在しており、伝達ありゲームと伝達なしゲームの間で、拒否率に差はなかった。結果は、最後通告ゲームでの不公平分配の拒否のかなりの部分が、同一性保護に基づいていることを示唆している。最後に、コミットメント装置（Frank, 1988）としての同一性保護の適応的役割についての考察が加えられた。

キーワード：最後通告ゲーム，一方的最後通告ゲーム，公平，互酬性，同一性